

東京の新しい街“豊洲”とともに生まれた情報誌 地域とママと一緒に、今日も成長中

江東区・江戸川区を中心に、20代から30代のママたちに愛されている地域密着クチコミ情報誌「ママポン」。初代編集長であり現在は発行人を務める山本みどりさんは、創刊3周年を迎えた今、ママと地域を元気にするための新たなチャレンジを計画している。

ママポン発行人 山本みどりさん

1976年生まれ。国立名古屋大学経済学部出身。ライターとして署名入り記事などを担当。結婚、出産を経て、3年前より子育てママのクチコミ情報誌「ママポン」を発行中。

ママが主役の街で ママたちが作った情報誌「ママポン」

平日の昼下がり、東京の東へ向かい、豊洲駅で降りる。地上に出ると、タワーマンションを背景にベビーカーを押しながら歩く母親たちの姿が目に入る。今、再開発によって豊洲周辺の街並みが整備され、結果、江東区に住まいを移す子育て世帯が増加しているという。「ママポン」発行人の山本みどりさんも、4年前に豊洲のマンションに転居してきた若いママの一人だ。

子供が生まれる前は、編集の仕事をしていてたという山本さん。「このマンションができたときに引っ越して、1年ほどたって「ママポン」を創刊しました。転居してきたばかりのママたちと横のつながりを作り、新しく引っ越してきた人には地域のことを知って好きになってもらいたい。もともと住んでいた人には、新しい発見をしてほしい」。そんな願いを込めた、地域情報や育児情報が満載のクチコミ情報誌だ。

第1号を立ち上げたのは、編集長の山本さんと5人のママだった。以来、来る者拒まずのポリシーで、「参加したい」と手を挙げたママたちと年4回の発行を続け、現在第13号まで発行。今では20人のスタッフが集い、企画、編集、営業など、業務のすべてを担っている。

「ママポン」の強みは、地域に密着した情報が豊富なこと。「正直、地域ネタに困ったことはないですね。何を掲載するか毎回悩むほどです」。また広告主は協賛社と考え、地

地域と一緒に広がり、変わっていく これからのステージ

先ごろ山本さんは編集長から発行人へと立場を変え、「ママポン」は創刊3周年を迎えてセカンドステージに突入した。

この3年間で、行政や企業、地元店舗から母親たちの気持ちや意見を聞かれることが増え、それが企業や行政の活動に反映されるようになった。しかし社会に対して伝えたいことはまだまだたくさんある。

まずは、子供の教育問題。江東区では人口が増え続けているにもかかわらず幼稚園の数が足りず、困っている人が大勢いる。小学校は学校格差があり、真剣に越境入学を考える母親が多い。また、人口の急増にもなっている環境問題の解決は無視できない課題に。

「私たちの声をもっと伝えたい」と考える山本さん。今、「ママポン」発行とは別に、新しいビジネスの展開を検討している。ひと

域と読者のためになるものを厳選。その結果、1回の掲載で70件もの反響が得られたものもあったという。

企業なら1人分の仕事も3人で分担 育児中、でも、仕事はやり切る

「ママポン」はB5判100ページほどのボリュームで、価格は380円。原価や利益を計算して付けた値段ではなく、自分ならいくらだったら買うか、と主婦が手に取りやすいことを第一に考えて決めたという。印刷を依頼している会社の担当者からは、「少し価格を上げたほうがいいのでは?」と言われる。実際、現在も売り上げのほとんどが経費に飛び、ママたちに高額な報酬は払えない。事務所もなく、全員SOHOスタイルだ。

しかし「ボランティアだから、育児中だからという甘えは出したくないですね。ちょっと自慢なんです。創刊時から現在まで、一度も発行日に遅れたことがありませんよ」。

しかし実際には、子供の都合で急にスケジュールが狂うこともある。そのようなときでも仕事が滞らないよう、ジョブシェアリングは徹底している。「たぶん企業だったら1人で担当する分量の仕事も3人で担当しています。それが続けられるコツかもしれません」。山本さん自身も、2人の子供を育てながら創刊からここまで来る途中には、しんどいことも多かったのでは? 「いえ、まだまだ時間の余裕はあるし、もっとチャレンジできるんじゃないかな、と感じます」

つの柱になるのは、母親たちの社会復帰を手助けする就業支援。「社会、復帰」というほど、育児中は社会から断絶されてしまうんです。そんなお母さんたちに復職や働き方の提案をしたいんです」

「ママポン」を発行することで、子供を持つ女性が楽しみながら社会とつながる場ができた。そこで培ったノウハウを生かし、今できることから始めている。わずかな時間に収入を得られるよう、座談会をコーディネートしたり、ライター養成講座を開催している。育児中の女性の持つパワーは「ママポン」が証明した。次に目指すのは、ママたちと社会の太いパイプ役になることだ。

2006年には約5000世帯、7000人も人口増加があった江東区。変化を続ける豊洲エリアには、まだまだ建設途中のマンションが多い。変わりゆく街と、この地域のママたちから目が離せない。



「ママポン」発行人の山本みどりさんは、自身も2児の母。そのネットワークが活動の幅を広げている

江東・江戸川エリアのお役立ち情報を提供

2004年に誕生し創刊3周年を迎えたクチコミ情報誌「ママポン」。20代から30代の、育児中のママたちから強く支持されている。年4回発行/380円(税込み)。発行部数2万部、江東区・江戸川区・中央区・墨田区の書店やスーパーマーケットなどで販売。「リビング東京 Bay」への情報提供なども行う。
<http://www.mamapong.com/>




2007年10月に開催したママポン編集部主催の「ハロウィンパーティ&フリーマーケット」。仮装パレード、ハロウィンゲーム&ショー、キッズモデルオーディションなど盛りだくさんの内容で、多数の親子が集った